

平成22年度（自 平成22年4月 1日 至 平成23年3月31日）事業概要

1. 大学院生および大学生、短大生、高専生、高校生、留学生に対する学資金の貸与。

(1) 本年度は下記のとおり奨学生を採用し、4月分から奨学金を貸与した。

学校別人数		種別貸与額(月額)		種別内訳	備考
大学院生	5名	1種	50,000円		
		2種	50,000円	5名	
大学生	16名	1種	50,000円	6名	
		2種	50,000円	10名	
短大生	0名	1種	50,000円		
		2種	50,000円		
高専生	0名	2種	50,000円		4-5年生
留学生	4名		50,000円	4名	
計	25名			25名	

(2) この結果、前年度より引き続き貸与する者と合わせて奨学金を貸与した者は下記のとおりであった。

	本年度新採用	前年度より継続	計
大学院生	5名	5名	10名
大学生	16名	67名	83名
短大生	0名	0名	0名
高専生	0名	1名	1名
高校生	0名	1名	1名
留学生	4名	10名	14名
計	25名	84名	109名

2. 研究助成

(1). 東京大学、新潟大学工学部、新潟大学医歯学総合研究科、長岡技術科学大学、新潟工科大学、長岡工業高等専門学校等に研究テーマを委嘱して推薦を受けたうちから下記研究に対して各600,000円、総額7,700,000円の助成金を交付した。

- ① 研究者 東京大学大学院理学系研究科 助教 東馬 哲雄
研究題目 日本列島におけるオオバウマノスズクサ群の多様化の研究
- ② 研究者 東京大学大学院理学系研究科 助教 角川 洋子
研究題目 ゼンマイを用いた溪流沿いの生育環境への侵入と適応に関わるゲノム解析
- ③ 研究者 新潟大学工学部 助教 櫻井 篤
研究題目 大規模並列計算による乱流・ふく射伝熱現象の解明
- ④ 研究者 新潟大学工学部 助教 落合 秋人
研究題目 米由来生理活性タンパク質の精製とそれらの構造と機能の解析
- ⑤ 研究者 新潟大学医歯学総合研究科 教授 日比野 浩
研究題目 内耳上皮組織の特殊バリア機構の分子基盤と生理機能の解析
- ⑥ 研究者 長岡技術科学大学 准教授 南口 誠
研究題目 投光性アルミナのパルス通電焼結機構の解明と高付加価値装飾部材への応用
- ⑦ 研究者 長岡技術科学大学 准教授 菊池 崇志
研究題目 高エネルギー密度科学研究 -複雑系プラズマ現象を明らかに-
- ⑧ 研究者 新潟工科大学 准教授 伊藤 建一
研究題目 低強度運動時の筋疲労検出に関する研究
- ⑨ 研究者 新潟工科大学 教授 富永 禎秀
研究題目 ストリートキャニオンにおける汚染質拡散の高精度モデリング手法の開発
- ⑩ 研究者 芝浦工業大学 教授 岩倉 成志
研究題目 北陸新幹線を活かした 糸魚川-上越-妙高コリドープラン
- ⑪ 研究者 長岡工業高等専門学校 講師 皆川 正寛
研究題目 ルイス酸分子を用いた電荷発生型Ambipolar有機トランジスタの開発
- ⑫ 研究者 長岡工業高等専門学校 助教 村上 祐貴
研究題目 塩害等により腐食劣化を生じた鉄筋コンクリート構造物の耐荷性能に及ぼすかぶり厚の影響に関する研究
- ⑬ 研究者 飯田市立追手町小学校 教諭 土居 正城
研究題目 スクールカウンセラーと教員の連携促進のためのコンサルテーションに関する研究

3. 奨学生集会

奨学生の研修指導の目的をもって、8月25日～26日(1泊2日)の日程で開催した。役員による講演会、来賓による企業側からみた学生の就職状況の説明、環境保護活動と森林の役割を楽しみながら理解するための森林保護活動、および奨学生同士の親睦会を実施した。内容は次のとおりである。

参加学生 31名

実施内容

1日目	全国各地より本部に集合
	【奨学事業についての理解】
	財団の概要説明
	職員との懇談と学生の近況報告
	【講演会と懇談会】
	(株)ENEOSエルク代表取締役社長 一色 誠一 氏 講演
	JX日鉱日石エネルギー(株)人事部副部長 陶久 昌明 氏 講演
	東京簡易裁判所民事調停委員 福寿 道夫 氏 講演
	資料館の見学・遊歩道の散策
	【奨学生同士の懇親会】
2日目	【環境保護活動への理解】
	杉林と周囲の環境保護
	杉の枝打ちと林間の下草刈り
	本部から貸し切りバスにてJR長岡駅に向かい解散

奨学生集会参加者には貸与奨学金年額の内、2ヵ月分の返還を免除する。

4. 奨学金の返還

奨学金の返還者は下記のとおりであった。

大学院生奨学金返還者	25	名
大学生奨学金返還者	167	名
短大生奨学金返還者	6	名
高専生奨学金返還者	4	名
高校生奨学金返還者	9	名
留学生奨学金返還者	47	名
計	258	名

5. 郷土資料館の運営

本年度も資料を整理、引き続き蒐集展示、奨学生および一般の観覧に供した。

観覧者 450名

資料館に付随する庭園および遊歩道の整備と改修を行った。

6. 不動産運営

不動産部として世田谷に一棟共同住宅を運営しており、その利益を本部に繰り入れ、事業運営に充当した。

7. その他

機関誌「山びこ」第43号刊行、奨学生および元奨学生に配布した。